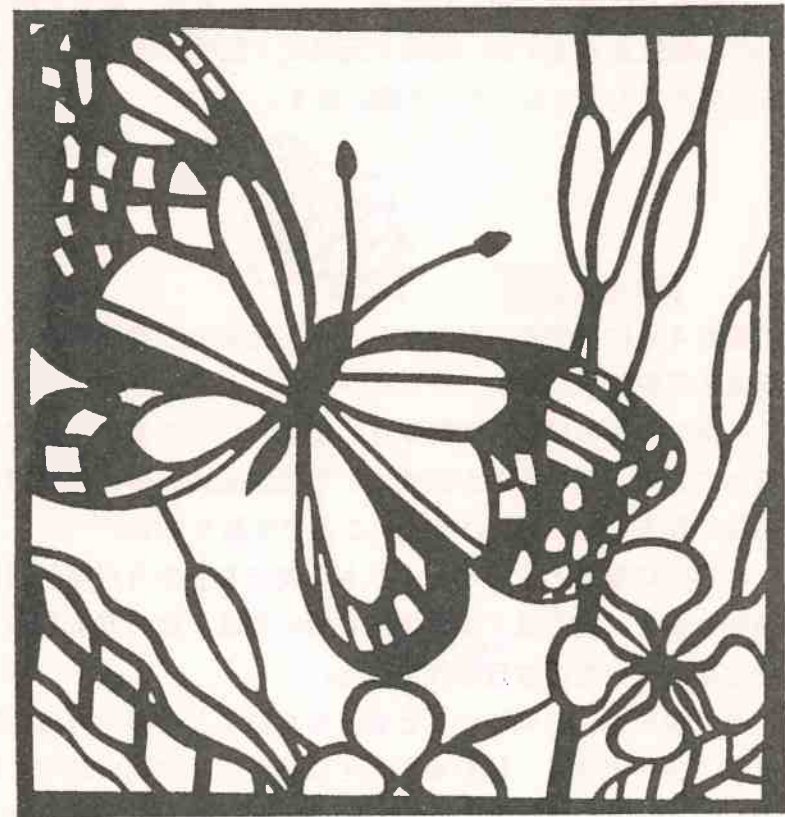


ふれあい 雪谷

平成12年

さくら号



(小池 門倉工さんの作品)



「母校の思い出」

私が雪谷小学校に第一期生として入学したのは、昭和二十六年七月です。

思い起こすと半世紀前の事になり、記憶もさだかでなくなって来ています。当時生徒数がだんだん増え、池雪小学校と調布大塚小学校に通う生徒の一部が統合され、新たに開校された雪谷小学校で勉強することになりました。

呑川も今より川幅も狭く浅く、大雨が降ると小学校付近では浸水した家もあったようでした。校舎は木造二階建てでした。まだ体育館もプールもありませんでした。

私達五年生が最上級で、三学級でした。先生も生徒も新しい学校という事で張り切っていました。特に私達五年生の受持、萩原、片桐、中野先生はまだ若い独身男性で仲良く三羽鳥といわれていました。

まず入学して、皆で校庭の草むしりをした事、教室もきれいにしようと各クラス競い合い、おからで教室・廊下の床を磨いた事。冬は木造校舎は寒く、教室には達磨ストーブが入り、石炭を焚き、ストーブの掃除当番があり、雪が降った日は皆で思いきり校庭で雪合戦をしたり、毎日下校のベルが鳴るまで校庭で遊んでいた事。

春秋の遠足・運動会・臨海学校・展覧会・学芸会等々綴ってみるとたくさんの思い出と共に、私達のはのびのびと育てられ楽しく雪小を卒業しました。

小学校時代の思い出は一年九ヵ月間の雪小時代に凝縮されています。雪谷で生まれ育ち、今年還暦を迎えました。人生は色々なたくさんの人々と、出会いと別れの連続という言葉もありますが、今ある人生の幸せな通過点は雪小時代だったと思います。

子供三人も雪小で育ちました。雪小第一期生の一人として、永遠に雪小が皆の幸せを作る源の学舎であって欲しいと思っています。

(希望ヶ丘 鈴木美智子)

編集後記

前回からのシリーズ「私の健康法」に続いて新しい「母校の思い出」が始まりました。あわせてお読み下さい。

身近かな事柄を取り上げましたので、自分と比べながら読んで下さい。

昔の雪谷地区の学校、その頃の世相や時代の背景などお汲み取り頂き、現在の学校を考えてみたいかがでしよう。

二つのシリーズにぜひご投稿下さい。

(希望ヶ丘 米川実)

※編集委員が変わりました。

上池上自治会

(新) 田中紀子(旧) 海老沢幸子

「発行」わがまち大田雪谷地区推進委員会

「編集」ふれあい雪谷編集委員会

連絡先 雪谷特別出張所

大田区東雪谷四一三一二三

電話 三七二九一五一七

「発行日」平成十二年四月一日

通巻第三十八号



サークル紹介④ 東雪 釣友会



東雪自治会リサイクルの会で集まった時、「天ぷら船に乗りたいね」と言う話題になった。

そうなるのと釣りキチは黙ってられない。平成九年二月、十名で最初は鯉に挑戦した。それが釣友会の始まりである。それから年々八回位のペースで沙魚から始まり、鯉・鯉・鯉・メバル・イシモチ・鯉・鯛と、どんどん大物にチャレンジする様になってきた。もちろん最初に比べて腕の方も上達して来た。

現在二十数名の会員で揃いのライフジャケット(海釣りに必需品)を身に付け釣りを楽しんでいる。

私の健康法④

暖冬。何より暮し良い事です。

お陰様で九十四歳。

まだ足腰は丈夫で、眼鏡は不用、読み書きには不自由しません。すべて自分でいたします。

多趣味で、美術鑑賞や観劇に一人で出掛けます。旅行も好きで、三位前まではよく行きましたが、現在は自分の年齢を考えて控えています。

自分の健康は、自分で守ることが第一です。



また、好き嫌いなく何でも食べ、薄味です。そして腹八分が大切です。昼食には、自分で作った新鮮な野菜ジュースをコップ一杯。その後自分流の体操。

毎日散歩は欠かさず、背を伸ばしサッサと歩きます。

帰宅後は手洗いとうがいを実行しています。

こうしたことが毎日の日課となっており、家族に感謝しながら毎日を暮らしております。

(東雪 片野三郎)

(希望ヶ丘 倉骨フミ)

新入学おめでとう



お母さんより

我が家の次男坊がもうすぐ小学校に入学します。幼稚園の入園式でじっと座っていられずにキョロキョロしているわが子にハラハラさせられたのが、つい昨日のように思い出されます。

子育ての忙しさにあっという間に過ぎた月日ですが、その間たくさんの素晴らしい思い出をプレゼントされました。これからも大変だとは思いますが、たくさんの思い出をもらうのを楽しみにして子育てに頑張ろうと思っています。



(東雪 米川美奈子)

お母さんより

楽しかった幼稚園での三年間もあっというまに過ぎ、真新しい机を目の前にし、娘も入学を心待ちにしております。

幼稚園とは違い、親の目の届かないことも多くなると聞き多少の心配はありますが、明るく元気に、勉強だけでなくいろいろな事を学んでもらいたいと思います。



(池の台 関田世資乃)

お父さんより

娘が4月に小学生になります。2人兄弟の2番目です。上の兄は3年生になります。あっという間の幼稚園生活でした。

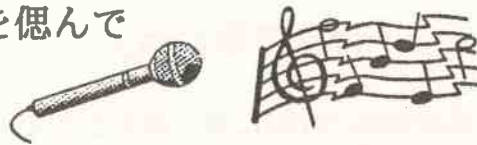
子供の日々の成長には驚かされます。いつのまにか小学生になってしまうというのが実感で、本当は家族の中に幼稚園児がいなくなるというのはさびしいことでもあります。

小学生になると「パパ」よりも「友だち」の方が優先順位があがります。自分は子供との付き合い方は、他の方よりもうまいと思っていたのは自惚れでした。

小学校生活は、楽しいことも、つらいことも多々有ると思います。自分で考え、悩む事を覚えなければいけない時もあります。「がんばるんだよ、はるか! たまにはパパとも遊んでね」

(南雪谷 古平裕造)

淡谷のり子さんを偲んで



『水仙のしじ間に 人ら待ちていし』——20年程前、毛筆の好きな淡谷のり子さんが下さった色紙です。お祖父様に仕込まれたと言う書は、のびのびとして優しいです。

私が子供の頃、50年も前になりますが、家も近い淡谷さん宅へ時々遊びに行きました。のり子さんのお嬢さん、奈々子さんは1歳年上です。他の友達もよく来ていました。きっと日本中を飛び回っていたのか、お母さんの淡谷さんにお会いした記憶はありません。代わりにいつも和服姿の上品なお祖母様が相手をしてくださいました。

それからずっとたって昭和57年、私の子供の通う小池小学校でPTA主催の講演会を計画し、是非にとお願いしました。「学校のことなら」と快く受けて下さいました。当日は2月の冷たい雨。車でと思ったのですが、近いからと歩いて来られました。おしゃれなのり子さんは、淡い色の花びらを何枚も重ねたような傘、靴は思ったより小さいシンデレラのようなハイヒール。細くて密に生えている髪。顔の肌は色白できめ細かく、逆に若い私達の方が羨ましくなる程でした。

平成5年、私が一番感激したこと。度々私も訪れていた区立羽田特別養護老人ホームに慰問をお願いしたことです。「皆さんが喜んでくれるなら」とOKして下さいました。入所のお年寄や職員の方々の拍手と花束と握手せめて迎えられました。

スウエットをわざわざ着替えて待っていた人もいます。笑顔と歓声に沸いた訪問でした。計画した私も幸せでしたが、即座に実現協力して下さいました淡谷さんに感謝しました。

過日、NHK・TVでの追悼番組の中で、のり子さんは「妹は私の宝です」と語って居られました。

妹のとし子さんも今年90歳。時々ご様子を伺うと、さりげなく介護の話がされますが、どんなに大変だったかと思えます。人生を歌一筋に助け合って来られたお二人は、この時期とし子さんの気力と愛情とで幸せな日々を過ごされたと思えます。のり子さん、雲の上から妹さんをずっと応援して差し上げて下さい。のり子さん、感謝を込めてご冥福をお祈り申し上げます。

(平成11年9月22日ご逝去)

(池の台 野辺晴子)

自治会リレー随筆

民生児童委員をお受けして!



私が民生児童委員をお受けして、早くも一年が過ぎました。当初“敬老の日に、お祝いをお届けする仕事”ぐらいの認識しかなかった私です。

いざ活動が始まり、新人研修や、役所の方々、保育園、児童館の先生方との話し合い等に出席させて頂くようになると、仕事の役割が見えてくると同時に、自分に務まるかしらと不安が募りました。

実際、知っているつもり道の道が分からずに、あわてて地図を広げたり、元気づけるつもりで訪問したお一人暮らしのお宅では、いつしか諭されたり、励まされたり、つくづく人生のキャリアの違いを感じさせられました。事ある毎に、先輩委員の方々に言われた「あせらず、ゆっくり、経験を積んでいくしかないわよ」という言葉が実感され、身にしみた一年でありました。

四月からは介護保険がスタートしますが、まだまだ問題を残してのスタートの様です。今迄同様のサービスが、どうかスムーズに開始されますようにと祈るばかりです。

価値観が多様化し、子育てにも迷いの多い難しい時代となりました。保育園や児童館の先生方も、子育て支援の場を作ろうと一生懸命です。民生児童委員としてのかかわりが、大きくなっていくのではと、感じています。まだまだ新米ですが、先輩方の来た道をなぞりながら、努めて行きたいと思っています。

(上池上 海老澤由喜子)

俳句 短歌

沈丁花ほころびそめて供華に伐る

(東雪 水野喜久)

早春の旅にハウスのいちご摘む

(東雪 水野喜久)

ふぶきいる洗足池畔の桜山

樹下に池に人など集いて

(小池 須藤美津子)

花蓆敷きて賑わふ桜山

太鼓につられ唄も踊る

(笹丸 濱邊はつ子)

